

「いきいき成器の里づくり」をめざして

鳥取市立成器地区公民館



地域団体と連携して、地区の魅力発信に取り組む鳥取市立成器地区公民館（以下、「成器公民館」）。地域資源を活用し、住民が一丸となって取り組む「殿ダム因幡万葉湖ウォーキング大会」には、県外からも多くの人々が参加し、地区の活性化につながっています。館長の福田悦子さん^{ふくだ えつこ}と公民館運営委員長の山崎豪太郎さん^{やまさき こうたろう}にお話を伺いました。



館長
ふくだ えつこ
福田悦子さん



公民館 運営委員長
やまさき こうたろう
山崎豪太郎さん

「殿ダム」成器地区に誕生

鳥取市の中心市街地から県道31号線を袋川沿いに12キロ遡った山間に、平成のピラミッドと称される美しい「殿ダム」*があります。このダムは、昭和37年の調査開始から地元住民の多大なる協力を得て、平成24年3月に完成。洪水調整や河川環境の保全、工業用水の供給、水道水の供給、水力発電の5つの役割を担い、鳥取県東部の安全と発展に寄与しています。

ダムの建設に伴いダム湖である「因幡万葉湖」周辺の道路も整備され、平成26年4月には、ダム本体下に殿ダム記念広場や上流には溪流釣りや自然観察などができる広場が完成しました。湖面に映る四季折々の景色を楽しみながら

ウォーキングやサイクリングができるとあって、地区外からも多くの人々が訪れています。

危機感から生まれた地域づくりの精神

このダムがある国府町成器地区は、10集落から成り、現在、人口571名、戸数190戸、高齢化率42.0パーセントの中山間地域です。昭和30年代からダム建設による集落の立ち退きなどの影響もあり、人口減少と少子高齢化が急速に進み、地区消滅の危機が叫ばれるようになりました。しかし、これといった解決策はなく、暗中模索の状態が続いていました。



※殿ダム
高さ約 75 m、長さ約 294 m、総貯水容量 1,240 万㎡。自然にある土や岩石を積み上げて作った多目的ダムです。

そのような中、平成元年、当時の国府町立成器小学校（以下「成器小学校」）校長の発案で、「いきいき成器」というキャッチフレーズが誕生。いきいきと生きる力を養い、課題解決に向けて住民が一丸となって活動を展開していこうという「成器の精神」が確立しました。地区内には「あたたかい、あいさつがこだまするいきいき成器の里」という看板が掲げられ、現在もその精神が息づいています。

地域団体と連携した公民館の取組

成器公民館は、現在、館長、主任、主事 2 名の計 4 名体制で生涯学習活動やコミュニティ活動の実施と支援事業を行っています。

館長の福田さんは、「公民館が中心となって敬老会や納涼祭、運動会、文化祭を毎年開催しています。『いきいき成器ふれあい祭り』『いきいき成器大運動会』というように、行事名の前には『いきいき』という言葉をつけて、『いきいき成器』の精神を大切にしています」と話します。

また、しめ縄作り講習会、しいたけ栽培講習会、料理講習会など、地域の伝統文化や食文化の継承を目的とした事業を行っています。

その他、青少年の健全育成と世代間交流を目的とした「成器っ子くらぶ」を設置し、地域の人たちの協力を得て、「わくわく探検 公民館に泊まろう！」や昔遊びとニュースポーツを体験する「ホカリンピック」などの事業を行っています。

以前、この地区にあった成器小学校は、平成 14 年 3 月に閉校。廃校となった校舎を活用し、地区出身の画家が開設した「アトリエ小学校」で絵画講習会や展示会などを行い、学びの場と地域のにぎわい創出の拠点として活用しています。



おもてなし隊によるおもてなし

地域の資源「殿ダム」に人を呼び込む！

平成 20 年 11 月、地区内の自治会長をはじめ地区公民館役員、各種団体の代表者などで組織された、まちづくり推進団体である「まちづくり・いきいき成器の会」（以下「成器の会」）が発足。公民館に事務局を置き、地区の課題解決のために、みんなで知恵を絞り、殿ダムや廃校となった成器小学校などの地域資源を生かした様々な取組を展開中です。

殿ダムを活用した取組として、「殿ダム因幡万葉湖ウォーキング大会」があります。平成 24 年 11 月、殿ダムの完成式に合わせて大会を開催。その後も広く参加者を募って毎年秋に開催しています。平成 24 年の参加者は、約 180 名。平成 28 年は、約 750 名の申込みがあったものの、鳥取県中部地震の発生により中止。平成 29 年は、約 750 名の申込みがありました。

企画、広報、申込受付、コースの草刈、案内板の設置、当日運営などを全て住民が担当。また、地元の中学生も放送係として運営に参加。公民館の運営委員長で、成器の会の会長でもある山崎さんは、「ふるさとに愛着を持ってもらえるように、積極的に子どもたちの出番を作っています」と期待を込めます。

参加者は、子どもから高齢者までの幅広い年代の人たち。スタートとゴール地点となっているダム記念広場から、自身の力に合わせて 8 キロコース、または、3.5 キロコースを選び、景色を楽しみながらゴールに向かって一斉に歩きます。歩いた後は、新米のおにぎりや新鮮な地元食材を使った豚汁が振舞われます。この食事を担当するのは、地元の 30 歳～80 歳代の有志 30 名で結成された「おもてなし隊」。前日から材料を仕込み、当日の朝 4 時から食事作りを行います。山崎さんは、「スタッフとおもてなし隊の心のもったもてなしや地元特産品の販売なども好評で、年々参加者が増え、人気のあるイベントとして定着しています。このイベントに取り組むことで、住民に誇りや活気が生まれています」と語ります。



因幡地区特有のしめ縄作りの講習会



郷土料理を学ぶ料理講習会



「わくわく探検 公民館に泊まろう！」の 1 コマ



廃校を利用したアトリエ小学校

ウォーキング大会コース案内図



住民とともに、夢のある未来を描く

ウォーキング大会の他に、「鳥取市市民まちづくり提案事業」に採択された「響け！殿ダム野外音楽祭」を平成26年9月に開催。国府町内7団体、町外9団体が発表。会場ではおもてなし隊などによる飲食ブースやスーパーカーショーなども催され、予想をはるかに超える約4,000名が来場しました。

成器の会は、旧成器小学校体育館の維持管理も行っています。鳥取市内からバドミントンの練習に高校生がやってきて、地区の行事にも参加。「若い人たちに来てもらおうと地区が明るくなる」と住民に喜ばれています。

これらの取組が評価され、平成28年度全国優良公民館の「優秀館」5館に選ばれ、文部科学大臣から表彰されました。

「住民みんなで受けた賞だと思っています。心豊かで温かい『いきいき成器の里づくり』というふるさとの姿を思い描いて取り組んできた成果が、今まさに花開こうとしています」と喜びを語る福田さん。「少子高齢化の波に抗うことはできません。その中で、地区の課題解決に向けて、地区の皆さんと力を合わせながら、これからも『いきいき成器の里づくり』に努めていきます」と抱負を語ります。

また、山崎さんは、「半世紀にも及ぶ殿ダムの建設にあたって、水没集落の方々の想いや建設に携わった人々の苦労は相当なものだったと思いますが、今では、殿ダムがまさに地区の宝となっています。その宝を活用した取組により、この成器の地にたくさんの人が集まり、にぎわいが生まれています。これからも地区ぐるみで活動することで、新たに何かが生まれる予感がします」と言います。

公民館と成器の会、住民が強固なスクラムを組んで行う様々な取組は、確実に定着しつつあります。「いきいき成器」の精神は、地区内外に広がっています。



響け！殿ダム 野外音楽祭



音楽祭には、スーパーカーもやってきて、にぎやかです！



地区内に設置された「いきいき成器の里」の看板と、住民により「成器のお花畑」と命名された花壇。毎年、有志により季節の花が植えられています。



平成28年度全国優良公民館の「優秀館」5館に選ばれ、喜ぶ公民館のみなさん（左から主任の出来さん、館長の福田さん、運営委員長の山崎さん、主事の岡本さんと井戸垣さん）